

## 知事との県民対話集会（阿智村）概要

- ・開催日時 令和5年8月30日（水） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 阿智村コミュニティ館 2階ホール
- ・参加者 県民50名、熊谷阿智村長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長
- ・テーマ これからの健康と観光 ～昼神温泉出湯50周年～

### 【参加者】

- ・村には、日本一の星空や花桃があり、常にブランド力の向上に努めてきた。それによりある程度全国的にも知名度を得るようになった。次のフェーズは、昼神温泉出湯50周年記念になる。地域ブランド力を高めた結果として、今後、昼神温泉を長野県一の温泉地に、長野県の温泉と言えば昼神温泉であると言われるように、認知度をさらに高める努力をしていきたいと考えている。
- ・リニア中央新幹線が開通するため、それを最大限に活かし、村と村の観光を持続可能なものとしていきたいと思っている。
- ・長野県の健康長寿について、改めて南信州でフィーチャーしようというメディカルバレー構想の取組を、地域振興局と一緒にやっている。ゆくゆくは医療の先進地としていきたい。最終的に安心して住むことができる地域であるためには、医療の問題が非常に重要であるため、この事業を持続的にやっていけるようお願いをしたい。

### 【参加者】

- ・昼神温泉の出湯50周年に関して、村の力添えもいただき情報発信に取り組んでいるところ。困っていることの一つはインバウンドの問題である。県内にはインバウンド客がたくさん来ているが、南信にはあまり来ていない。私たちも一生懸命やるので、南信にも来てもらえるような配慮をいただきたい。
- ・リニアが開通したら必ずしも人が来るばかりではない。ストロー現象が起きることもあるので、その辺りの環境整備や対応をお願いしたい。
- ・以前の県観光部はオンラインや電話で観光に関する情報収集をされていた。こちらも何かあればすぐに話ができただけ。すぐにできることをフットワークよくやっていただきたい。
- ・長野県の平均寿命が高い点について、高齢者が就労することにより元気で暮らしていると思う。高齢者が活動できる場所にフォーカスを当て、支援してもらえるとありがたいと考えている。

### 【知事】

- ・阿智村を長野県一の温泉地域にすると聞いた時に、県庁に座っていると見えている世界が皆さんと違うと思うので、私が南信州とベクトル合わせをしなくてはならないと思う。阿智村はまず中京圏とどうつながるか、大阪関西万博も開催されるので、過去に比べると売り込みが減っている関西圏に再度売り込むということをしっかりやっていきたい。
- ・リニアは、県内の工事も着実に進んでおり、確実に進捗させなければならない。また、ストロー現象の話は、リニアの構想全体で意識して考えていきたいと思う。
- ・オーストラリアと中国に行く機会があったが、どちらも日本の観光に対する目線が非常に熱いものがある。健康長寿、食というのが重要なキーワードである。健康長寿と観光をどうつなげていくかというのを、我々もしっかり考えていかなければならないので、昼神温泉の皆さんとタイアップして進められるとありがたいと考えている。
- ・医療については、来年、保健医療計画の改定期であるため、県全体の医療機関の役割分担も含めてしっかり方向付けをし、グランドデザインをつくろうと思っている。
- ・県としてもインバウンドに関し、もう一度しっかり誘客を促進しようとしている。南信にあまり来ない要因は、交通が相対的に不便というのが影響しているのではないかと考えている。高速交通網の整備は、県としても力を入れてやっていきたい。また、これからは長期滞在型、リピーターをもっと増やす努力をしようと思っている。
- ・観光でも他の分野でも、オンラインで簡単に情報共有できるような時代になっているので、仕事の仕方自体も変えていくようにしたいと思う。そうすると我々が考えていることや皆さんが何に悩んでいるのかをリアルタイムで共有でき、具体的な政策や海外の事例なども伝えることができると思う。
- ・高齢者の活動支援は重要な話だと思っている。長野県の健康長寿の要因はいくつかあり、食生活改善推進員の皆さんをはじめ健康ボランティアの方々の努力と、野菜や果物をたくさん摂取していること、高齢になっても働いている方たちが多いこと。私はこの3つが要因であると思っているので、そこは意識しながら取り組んでいきたいと思っている。

【参加者】

・長野市に県庁があるということは根本的な問題として、そろそろ南北格差を是正しないとイケないと思う。その契機になるのが、リニア中央新幹線である。  
・インバウンドの話もあったが、我々がインバウンドを誘致できないのは、交通インフラの問題であると思う。この先リニアが開通することを考えると、この10年が外国の方がおいでになる時期になると思うので、この10年間をきっちりやるための財源の確保が課題であると考えている。

【知事】

・リニア関連もあるので南信にはかなり投資していると言えると思う。どうしても座っている場所の目線を持ってしまおうと思うので、私を含め県職員がいかに長野市目線でない目線を持つことが重要であると思っている。  
・市町村を回る中で、地域ごとに目線は異なっている。北信の中でも長野市と栄村の目線は全く違う。南信だけ目線が違うというわけではないという部分をご理解いただきたい。  
・リニア時代を迎えるに当たり、一番変わる可能性が高いのが南信州、上伊那、木曾地域であるため、そこに注力するのは当然の流れだと思っている。県庁全体の意識もそのように向けていこうと思っている。

【参加者】

・村の食生活改善推進協議会は、昭和45年の発足以来、村民の食と健康に関する様々な取組を行ってきた。  
・阿智村には美味しく健康によい野菜や果物がたくさんある。まずは村民の私たち自身が、その素晴らしさを知り、生活に取り入れていくことが重要であると思う。  
・村には美味しい食べ物だけでなく、素晴らしい温泉もある。地元の方々や村を訪れる方々が、食を通じた健康づくりと温泉の恵みを受け、体も心もリラックスし、コミュニケーションの場所として魅力的な村になるよう頑張っていきたいと思う。

【知事】

・食生活改善推進員の皆様のおかげで長野県は長寿県になったと思っている。健康長寿県を進めていく上で、どんな課題があるとお考えか。

【参加者】

・子たちたちが健康な食事を採れているのかが問題になると思う。そういったところをこれからは考えていきたい。

【知事】

・県も信州子どもカフェを全県で広がるように応援している。お話にもあったように、子どもたちの食のあり方をどうするかは、もう一回考えないとイケないと思う。  
・今の少子化対策や人口減少対策の課題の中で、子どもへの支援、子どもを持つ家庭への支援をどうしていくかは重要な課題であるため、長野県としてそういう観点の中に食の話を入れていきたいと思う。

【参加者】

・村出身で15年ほど前にUターンして農業を始めた。農家が減少していると感じている。農家は個人で営んでいる方が多いので、1回辞めてしまうと、リカバリーが難しい。高齢化の問題もある。  
・仲間づくりなど裾野を広げたり、若い人たちが農業に入ってこれる仕組みをつくることが大切であると思う。  
・県農業担い手育成基金が毎年、長野市で求人フェアを行っているが、要望を出しても南信では開催されないため、それぞれの地域でも開催をお願いしたい。南信は求人を出すと東海圏から人が来ることが多いので、是非そういった取組をお願いしたいと思う。

【知事】

・県も新規就農里親制度などに取り組んでいるが、なかなか思ったような結果に結びついていない。その中で、県としても、もっと施策を充実していきたいと考えているが、どうすべきであるとお考えか。

【参加者】

・小学校や中学校の子どもたちが職業体験で来ることもある。職業選択の中で農業があるということを知ってもらう機会をつくる必要がある。他の産業と比べ賃金格差などもあるので雇用就農を増やすなど、農業への道筋をもっとつくってあげればよいと思う。

【知事】

・農業高校を卒業して就農する人がほとんどいない。農業の担い手が少なくなっている中で農業高校の役割を果たしているかという問題意識もあるので、そこはしっかり考えなければいけないと思う。

・農業について、就業先として認識してもらうための体験活動や就農する際の様々な支援も重要であるが、稼げる農業としてどうしていくかということも大事であると思う。

・頑張ってもなかなか稼げないということでもいけないと思うので、農業プラスアルファで取り組むことや素材として出荷するだけでなく加工することなどをしていかなければいけないが、このようなことも含めて農業を核として考えていく必要がある。

・もう一回産業として、農業ベンチャーを増やすとか輸出戦略を考えるなどのポジティブな議論をし、若い人たちに伝えていけば、若者もやってみようという話になるかもしれないので、そこは問題意識を持っていきたい。

・求人フェアについては、先程の南北問題の話に関する意識などが出てしまうと思う。話を聞いていて県の予算編成や関連団体が施策を講じる際に、地域的にどうなっているかというのを確認することが必要ではないかと思う。

【参加者】

・2年前に京都から阿智村に移住し、農業に携わっている。

・観光客の方にも、ただ観光地に行くだけでなく、農作業を通して、また違った楽しさや阿智村のよさを知ってほしいと思っている。

・子どもたちにも農業を経験してほしいと思っており、私が働いている農園では中学生の民泊を受け入れており、素晴らしいと感じている。今すぐに農業のよさを分かってもらえなくても、大人になって、あの時の経験はよかったなと思った時に、農作業ができる観光農園があればよいと思う。

【知事】

・観光客にももっと農業を体験してほしいというご意見については、私もそう思う。農業をもっと観光につなげなければいけないと思う。阿智村はかなり観光で人を受け入れられているので、どうするか村と方向感を共有し、取り組んでいきたいと思う。

【参加者】

・ガソリンスタンドを経営しているが、先日、観光客から（ガソリンの）単価はいくらかと聞かれ、191円と答えたら結構ですと言って帰られた。飯田下伊那地域は余計に価格が高いので観光客にも影響があるのではないかと心配している。長野県が一番高いというイメージは払しょくする必要があると思う。県としてどのように考えているか。

【知事】

・県としても問題意識を持っている。県レベルでガソリン価格を調整するのは難しいため、国でしっかり対策を考えてもらう必要がある。先日、ガソリン価格の高騰抑制と価格の地域格差の解消を国に要望したところ。

・もう一つ、化石燃料は減らしていかなければならないと考えている。中長期的には、エネルギーをたくさん使う社会を変えなければいけないと思っている。

【参加者】

・県外の方から、三遠南信について、県を越えたつながりの中で地域の活性化をすることは素晴らしいとお聞きした。三遠地域と長野の関わりを大事にしていく三遠南信の取組は、非常に価値があると思っているので、そういった関わりを県知事レベルで認め合い、後押しする姿勢を持っていただければありがたいと思う。

・森林づくり県民税で、村では森林、里山づくりが進んでいる。林道をつくっていただいたが、災害の連続でそれに対応するための費用が非常にかさんでいる。根羽村、平谷村と連携し、ジブリパークに負けないようなフォレストパークづくりに取り組んでいる。ご協力をお願いしたい。

【知事】

・三遠南信については、私が道路建設の期成同盟会の会長を務めている。各県と沿線の市町村長さんと一緒に国に整備促進を求めている。

・地域間の交流を進めていくことが重要であると思う。地域振興局も他県の現地機関と意思疎通を行っている。道路ができた暁には、静岡県や愛知県の知事と私が連携していくということも重要と考えている。

・森林整備に関し、森林づくり県民税でいろいろな取組を始められたことはありがたく思っている。

・気候変動の問題でいろいろなところで災害が起きているが、我々も速やかに対応していきたいと考えている。森林環境譲与税を活用し、森林の保全、活用を進めていきたい。

**【参加者】**

・学校での支援が必要な子どもたちや不登校の子どもたちがいる。高校においても学びの継続に困難さを抱え退学してしまう子もいる。高校は義務教育ではないため、辞めてしまうと相談先がない。フリースクールの高校版や、選択肢の多様化など、県立高校においてもそうした子どもたちへの支援を検討していただきたい。

**【知事】**

・学校に行かない、行けない子どもたち、特別な支援が必要な子どもたちへの対応については、最も重要な課題であると思っている。信州学び円卓会議においては、個別最適な学びの実現を一番のテーマにしている。学校のペースについていけない、学び方に工夫が必要、学校には行かないなど様々な子どもたちがいる中で、どうすれば最適な学びになるかを考えたいと思っている。

・それを先取りしているのが、フリースクールの認証制度である。学校にしばり付けるような考えはいまだにあると思う。学校に行かないことを奨励するつもりはないが、学校に行かない、行けない子どもたちにも、学び場をつくる必要がある。高校中退してしまうと義務教育ではないため、そこが空白地帯となっている。そうしたことには問題意識を持っていきたいと思う。

**【参加者】**

・私は市町村をまたいで事業を営んでおり、市町村それぞれでゼロカーボンに取り組んでいるところであるが、市町村レベルでは、積極的に取り組んでいるところもあれば、消極的なところもあり、是正が必要ではないかと思う。一定の基準がある方が取り組みやすいと考えている。

**【知事】**

・国の進め方が、脱炭素先行地域というトップランナーをつくり、その後に全体を追いかけさせるという発想である。そのため、おっしゃられたとおり地域での差が大きい。長野県は全体として脱炭素をしっかりと進めようと考えている。何をやっていいのかわからないという市町村とは一緒に取り組めるようにしていきたい。